



次世代型要支援者救護システム

プライバシー保護と救助効率の両立による、防災対策のパラダイムシフト



「情報のジレンマ」を解消し、誰一人取り残さない社会へ

「同意への拒否」×「基地局断絶の時は繋がらない」
この2つの壁を同時に解決する必要がある



課題①：個人情報の壁

「監視されたくない」「情報漏洩が怖い」という住民の心理的ハードルにより、事前登録が進まない。結果、要援護者の所在が把握できないまま災害を迎える。



課題②：72時間の壁（通信断絶）

発災直後の基地局ダウン・停電により、スマホや見守りタグの通信網が寸断。GPSが機能せず、生存率が低下する「72時間」以内の発見が困難になる。

「解決策1 × 2で実現」
「誰か」ではなくて、「どこにいるか」で救う

プライバシー保護：個人情報「救助の瞬間」まで明かさない

心理的抵抗感・高（個人情報が地図上で丸見え）⚠



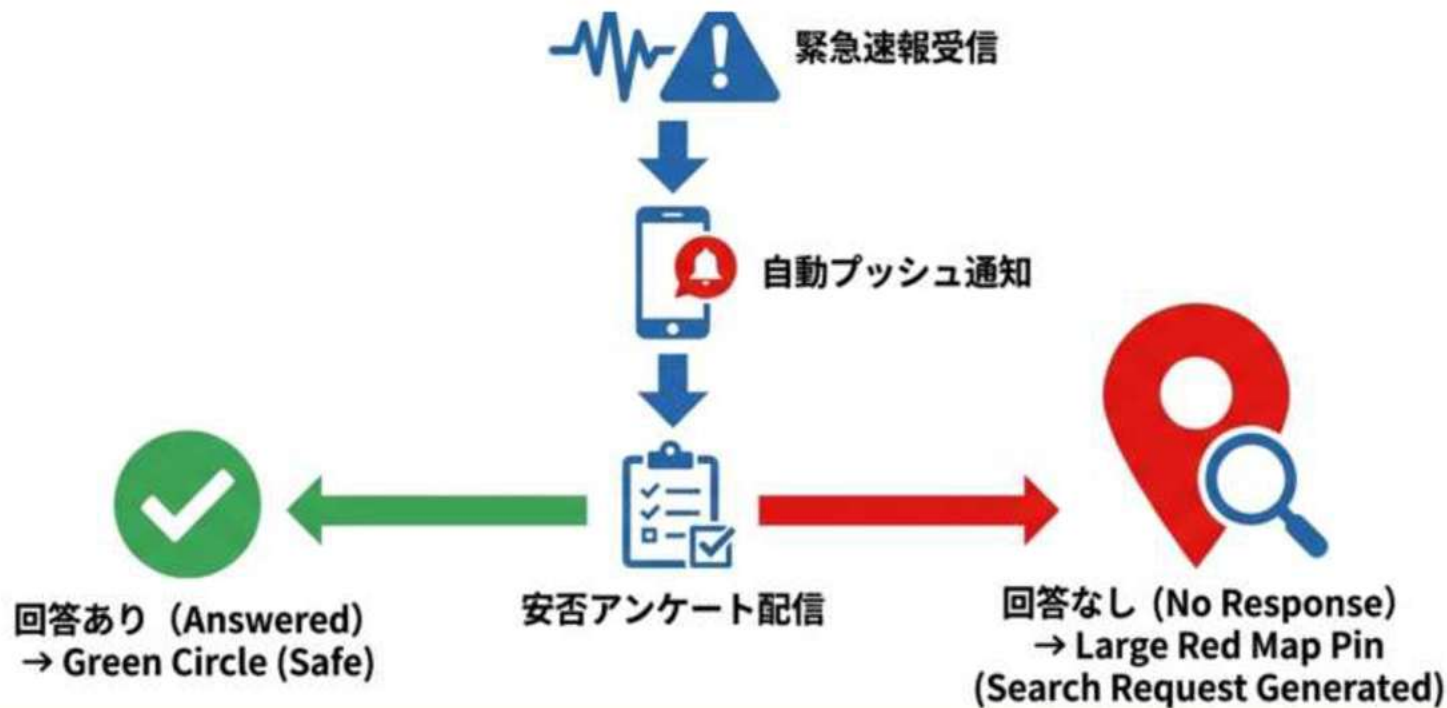
既存の安否確認システム（Kobeモデル等）

✓ 心理的抵抗感・低（IDのみ表示）



次世代安否確認システム（提案）

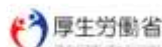
発災トリガー：自動安否確認と「赤いピン」の出現



未回答者のみが自動的に「搜索依頼（赤いピン）」として地図上に可視化される。

「共創エコシステム」DX

「地域・多文化共生支援アプリ」



介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業

♡ 見守り
(2017年～)

みんなで (市民主体型)

DX①多世代型見守り



互助の集結

①見守り合い

おばあちゃんがいらない

5km

10km

20km

発見連絡+
お礼通知配信

×自動
消去

全国：約400万DL
(大阪府：約60万DL)



認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業

♡ 居場所
(2023年～)

well-beingを高める

DX②ケア番組

福祉
「声」
支え合い

②

音声SNS



認知症関係

新しい
居場所
マッチング

DX④アウトリーチ支援

DX③地域番組

地域
「多世代」
繋がり合い



多文化
共生
実現



地方創生SDGs官民連携プラットフォーム「優良事例」受賞

④市民主体型DXで、地域と福祉を1つに繋げる

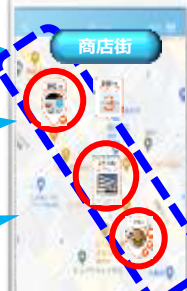
③地域の見える化
「音声ガイド付き」スタンプラリー

音声
が
聴ける

レガシー
を残す

スタンプ
ラリーで
楽しむ

約60大学・団体が参画中



EXPO
2025

多文化(2025年～)

言葉の壁をなくす

DX⑤74か国語翻訳支援

⑤言葉の壁を解消

74か国語ビジネス翻訳



在住・訪日外国人
言葉の壁を解消
「心のケア」実現

技術協力の体制

